

目的 ; 我が国の家計調査の多くでは、被調査世帯が自記式で毎日の家計収支を長期間記録する日計調査の方法がとられているが、この調査方法は、被調査世帯にとって、非常に重い負担となっている。被調査世帯の負担を軽減し、なおかつ、調査結果の精度を低めることのない、家計調査簡易化の方法を考察することを目的とする。

方法 ; 我が国現行の家計調査法、および欧米諸外国の簡易家計調査法を検討し、それによつて簡易家計調査法考察の上で必要とされた、毎日の支出変動に及ぼす曜日・収入日・月末日始の影響の分析、品目別支出頻度・1回の支出額・支出方法などの支出特性の分析を行なった。

さらに、岩手県一戸町で実施した簡易家計調査法による生活費調査において、1か月生活費を推計し、その推計結果を、社会保障研究所、中高年者生活総合調査を資料とする推計誤差の実験的吟味を参考に考察し、簡易家計調査の精度を検討した。

結果 ; 簡易家計調査法としては、毎日の収支を記録する日計調査の期間を短縮して、被調査世帯の負担を軽減する一方で、長期間の収支を調査する一括調査の調査項目・内容を充実させ、日計調査の短縮によつて記入のしやすさや可能性の大きい品目や、記憶や記録の容易な項目について把握する方法が考えられる。調査実施にあつて、調査目的や対象に応じた日計調査の調査期間・一括調査の調査項目を検討し、1か月生活費推計の規準・係数を決定することによつて、簡易家計調査においても、精度の高い調査結果が得られるものと考察された。